

探索ワークシート（記述例）

情報源	得られた情報	気づき・アセスメント	健康課題・活動の方向性
担当保健師 手持ち情報	【A市B町の概要】 ・B町は、地方都市A市のベッドタウンとして発展してきた町。1965年頃より地域開発を町政の重要課題に位置づけ、用地造成を進めてきた結果、人口が急増した。しかし現在のA市B町人口18,142人、高齢化率23.8%、人口減少と高齢化が進んでいる。 ・B町のある小学校区は3つの地区（スマレ地区・リンドウ地区・レンゲ地区）で構成されている。スマレ地区とリンドウ地区は丘陵地にあり、戸建て団地が1自治会を形成している。最初に造成されたリンドウ地区の高齢化率が最も高く34.8%である。最近独居高齢者の孤立死が発生している。 【スマレ地区の概要】 ・新田菜保健師が担当しているスマレ地区は、134世帯、人口335人、高齢化率23.3%であり、地区の近辺に店や病院はない。最寄りの駅は、急な坂道を15分くらい降りたところにある。	【実態探索〈課題把握〉】 ・・・衛る「生（生命・生活・生きる権利）」のリスク ・人口減少と高齢化が一気に進んでいる現状 ⇒【実態顕在化〈見える化〉】 ・現実に孤立死が発生したことにより、疾病予防や介護予防に加え、孤立予防・孤立死予防が重要な局面となっている。⇒【実態顕在化〈実在見せ〉】 ・地域にはかつての活気がなく、地域の活動に無関心な人が多い。この地域でも孤立死が発生するのではないかという不安がある。⇒【実態顕在化〈実在見せ〉〈要因見せ〉】 ↓ ・戸建て団地の急激な高齢化に伴う健康課題を解決・改善するための活気づけは、市全体の健康レベルの底上げにも重要である。 ・放置すれば、今後ますますこれらの問題が深刻化する恐れがある。 ・地域としてこの問題に取り組む必要がある。 ・子どもが巣立ち、生活意欲が低下している人が多い。 ⇒【実態顕在化〈実在見せ〉〈要因見せ〉】 ・地域住民同士の交流の希薄化に加え、足腰が弱り、急な坂で外出が困難なため、家に引きこもっている人が多い。⇒【実態顕在化〈実在見せ〉〈要因見せ〉】 ↓ ・地域での生活継続への不安感や孤独感により、引きこもり、うつ症状、自殺企図や孤立死を招く可能性がある。 ・膝・腰といった筋骨格系疾患を有している人が多い。 ⇒【実態顕在化〈実在見せ〉〈要因見せ〉】 ・不便な生活環境（急な坂、駅までの公共交通不足）がある。⇒【実態顕在化〈実在見せ〉〈要因見せ〉】 ・上記により、買い物や受療の困難がある⇒【実態顕	#1 孤立死が生じるおそれ 背景： ・人口減少・高齢化の加速 →有病者↑（特に骨関節系） →環境要因で加速 →ADL↓、外出↓ →メンタル↓、意欲↓→孤立↑ ・住民の交流希薄化・地域への無関心 →地区活動（－）→地区の活気↓ →共助（－）→孤立↑→孤立死↑ →住民の誇り↓・地域への愛着↓ →住み慣れた地域での生活が破綻へ めざす方向性： 地区住民の主體的な取り組みによって、地区の課題が解決・改善に向かう。 目標： ・住民が地区の課題を共有し、自分たちの課題ととらえることができる。 ・望む暮らしを確認し、現実とのギャップを認識できる。 ・望む暮らしの実現に向けて行動する決意を固められる（組織化に向けた行動計画へ）。 ・住民の強みと地区の資源を認識し、十分に活用できる。 ・ほかに必要な支援や資源を明らかにし、入手、活用、協働できる（保健師、学識経験者、統計資料、教材など）。
地区担当 ヘルパー	地区高齢者の生活：そうねえ、足腰が弱っている人が多いから、急な坂は外出しづらく家に引きこもっている人が増えているわ。 昔はみんながうらやむような生活だったけど、子どもたちが出ていき寂しい生活をしている人が多いわ。住民同士の行き来もみられないし… 生活の困りごと：気軽に買い物に行ったり、出かけたりできないことでしょうね。病院を受診するときとかはタクシーを使っているようだけど、いつもはねえ… 地区特性：スマレ地区はまだ元気な高齢者は多いけどね。ここより、もっと高齢化が進んでいるリンドウ地区はこのままだとゴースタウンになってしまっているのではないかなと思うの。スマレ地区も数年後には同じような状態になっていないか心配なのよね。		
B町 健康推進員	多い健康課題：スマレ地区の人は、坂が多いからか、足腰の痛みを訴える人が多い気がします。近くに店や病院、バスや電車の駅もないので買い物や受診など外出がしづらく、不便に思っている人が増えているのです。これで車の運転ができなくなったら、ますます大変になりますよね。 地区住民の健康意識：地区の公民館で骨粗鬆症予防教室や栄養教室、健康体操など企画してはいるのですが、参加者は少ないです。でもひとりでウォーキングをするなど個人的に健康づくりをしている人が多いので健康意識は高いように思います。		

	健康推進における長所短所：よいところは、地区内に立派な公民館があって利用しやすい環境が整っていることですね。あと地区の活動や近所付き合いに参加していない人は多いですが、町の文化教室やボランティア活動には参加している人がいることですね。気になる点は、ご近所同士の交流が少ないので誘い合って健康教室などに来てくれる人がいないことですかね。	在化〈実に見せ〉】 ↓ 車の運転ができない、タクシー費用がかさむなどの状況になれば、買い物や受診の困難が増加、および社会活動の狭小化が生じ、健康課題が深刻化する可能性がある。	➡ アクションプランへ
スマイレ地区 自治会長	昔の地区状況：ここは見晴らしがよい土地なので、昔人気が高かったのです。そのため、県外出身者が8割を占めていますよ。団地に住みはじめた当初なんかは子どもも多く、活気があり、町内のバレーボール大会やソフトボール大会で優勝するほどでした。また地区の中心には公民館もあり、地区活動をしやすい環境が整っていてよく利用していました。 地区の自慢：ゴミの収集日にどの家庭も整然とゴミ出しをしていることや、路上駐車をする人がいないこと、自治会の加入率が97%であることですね。 課題認識とビジョン：うちもリンドウ地区と同じで住民のつながりが弱いので、同じような事件が起こるのではないかと不安に思っています。「向こう三軒両隣」の精神がこの団地にできれば、と思っています。働いている人は忙しいので、高齢者同士が支え合える地域にしたいです。団地の活動に無関心な人が多いけれど、幸いなことに何かはじめることに反対する住民は少ないのがよいところですね。	【実態探索〈強み発掘〉】 - 地域のことをよく知る自治会長がおり、住民同士が支え合える地区にしたいというビジョンがある。 - 自治会の加入率が高く、暮らしのルールを守って生活している人が多い。 - かつては自治会名を掲げて一丸となって取り組む団結力があつた（団体競技での優勝など）。 - 健康教室の参加率は低いですが、個々に健康づくりをしており、健康意識の高い住民が多い。 - 無関心で関係が希薄な反面、反対勢力はなく、県外出身者が多いため因習にとらわれにくい。 - 景観のよさに誇りをもっている。 ↓ - 人望のあるビジョンをもったリーダーが存在する。住民には健康づくりを通して、助け合い、活動を創出していける潜在力がある。現在は、つながりを醸成する仕組みがないが、今後つくっていける可能性がある。逆に放置すれば孤立死を招き、住民としての誇りが低下し、この地区での生活継続に支障をきたすおそれがある。	
健康福祉課 課長	団地開発の歴史：この町は、1965年ごろから町を活性化するために積極的に宅地開発を進めてきました。開発当時は、若い世代の転入者が増えたことで、人口増加率と出生率が県の上位を占め、とても活気がありました。しかし団地開発を終えた今では、人口減少と高齢化が一気に進んでいる現状があります。 行政課題優先度：高齢化が進むことにより、介護保険料や医療費が年々増大しているので、疾病予防や介護予防対策が現在の重要課題であると考えています。また、最近リンドウ地区で孤立死が発生したことも町の新たな問題であると認識しています。 保健師への期待：保健師さんには、市の行政課題である介護予防や健康づくりに取り組み、医療や介護保険の給付費削減につなげてほしいです。そのためにも、戸建て団地の健康課題に取り組み、B町全体の健康レベルの底上げを期待しています。また、住民の孤立予防にも力を入れてもらいたいです。	【実態探索〈資源探索〉】 - 地区内の活動参加や誘い合いはないものの、地区外の文化教室やボランティア活動への参加者あり。 - 地区内に立派な公民館がある ↓ - 潜在している人材、力のある住民が地区の課題に目を向ければ、公民館を活動拠点として、彼らを核として地区組織活動を開始できる可能性がある。	